

## 石垣市公共用水域及び地下水の水質調査業務に係る調査結果について

本水質調査業務の調査結果については、採水ポイント 2.(河川水)及び採水ポイント 3.(河川水)で、生活環境の保全に関する環境基準の測定項目である溶存酸素量(DO)のみが、環境基準を達成していなかった。

要存酸素量(DO)は、沖縄県が実施している公共用水域及び地下水の水質測定(以下、「沖縄県調査」という。)でも、「全体的に環境基準不適合地点が多くみられるが、その原因として、水温等の自然的要因が大きいと考えられる。」と述べられている。

なお、採水ポイント 2.及び 3.に最も近い沖縄県調査の測定地点は、宮良川平喜名橋(基準地点)であり、同地点での 2020 年度の溶存酸素量(DO)の調査結果は、4.1～8.8mg/L の範囲で変動しているため、本調査での溶存酸素量(DO)の水質調査結果は、変動値の範囲内であった。

溶存酸素量(DO)以外では、その他の生活環境項目、水質汚濁に係る項目、健康項目ともに、全地点の全ての項目で、環境基準を達成していた。また、「ペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOS)及びペルフルオロオクタタン酸(PFOA)」は、全地点で、指針値(暫定)を下回っていた。

以上のことから、今回実施した本業務での調査結果としては、環境基本法が定めている「人の健康を保護し、生活環境を保全する上で維持することが望ましい基準」に関しては、ほぼ達成していると判断する。なお、達成されていない項目に関しては、水温や流量などの自然的要因が大きいと考えられる。